



NO.1013
2015・3・29
発行所
日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
電話四三、四四五八
F 四三、四四五七



市営住宅の来客用

駐車場の確保・明示

3月議会の予算等審査特別委員会の審査で、松浦議員が市営住宅に来客用の駐車場がない問題を取り上げました。また、就学援助制度についても取り上げました。



近年建てられた市営住宅は中層の住宅で、1棟に50戸前後の入居者が入るようになっていて、来客者が駐車するスペースが表示されていないことから「市民から何とかしてほしいとの声がある」として、改善を求める質問をしました。

質問に対して建築課長は、「ご指摘の通り現在来客用の駐車場がないが、管理人とも協議して空きスペースにコーンを置いて来客用の駐車場として分かるよう明示する」と答弁がありました。今後、それぞれの市営住宅で来客用の駐車場が確保されることになりました。

就学援助が、平成25年度

の収入基準で判断

政府は、平成25年8月に生活保護基準を国民の反対を押し切って引き下げました。それにより生活保護基準をもとに判断していた多くの制度に影響を与えることが懸念されていました。

昨年の予算審査の中でも松浦議員が、就学援助が生活保護基準の1.3倍以内となつていて、このままでは多くの世帯で除外されてしまうと指摘して、平成25年度当初の基準を守るよう求め、教育委員会として守ると答弁していました。

平成27年度から具体的に影響が表れることから、松浦議員が改めて質問し、どのようにして基準を守るのかと質問しました。教育委員会の管理課長は、平成25年度の所得を基に判断するので、生活保護基準が下がっても影響がないようにしていると答えたので、これまで同様に就学援助が受けられることになりました。

いよいよ東奔西走

反対討論を終えて自席に戻り感概ぶかい思いにひたつていました。今から16年前、はじめて本会議場の演壇で一般質問を行ったときの言い知れぬ緊張感に襲われたこと、決算での反対討論を行っていたら、残り半分の原稿を自席に置いてきて、覚えていたことを思い出しながら終わったこと、（後から議事録を見るとほとんど原稿どおりだったのでほっとしました）、恫喝まがいのヤジに対して、思わず「黙って聞け！」と反論した事など走馬灯の様に蘇ってきました。賛成討論も終わり、議長の採決では自席で反対の意思を座って行い、事実上、最後の意思表示を終えました。

菊地ひろし

急に春らしくなり、早く土を見たいと氷を割っている方がたくさん見られました。しかし24日の朝、外を見ると15cmぐらいの雪、皆さんののがっかりしている姿が目につきました。しかし春は確実に来ます。

道政の春も必ず来ると思っています。26日に知事選挙が告示されましたが、みなさんに「共産党よく頑張っているな、見直したよ」と言われます。いろいろな曲折があっても革新道政実現のために力を尽くす、いまだ量が試されていると思えます。とりわけ「集団的自衛権行使」容認のための法律作りに、わき目も振らない安倍政権にしっかりと対峙する、そんな団結が必要ではないでしょうか。

松浦奮戦メモ

議会が終わり後援会員や支持者を訪問しています。先週は、天候に恵まれ雪もミルミル解けて道幅も広くなり、効率よく回ることができました。ある地域を回っていると汗ばんできて「まずい」と思いながら回り終えました。夕方も回りましたが、今度少し肌寒い感じがして「まずい」と思いながら回りまわりました。翌日、喉がヒリヒリやられたと反省しても時すでに遅し、葛根湯と消炎剤を飲みながら集金とあいさつ回りをしています。回復までには、あと数日かかるでしょうが気合いで風邪を吹き飛ばすつもりです。市議選もいよいよ激しくなってきました。私の支持者のところにも何人もの候補者が訪ねてきているようで、4名削減の下での市議選が、いかに厳しいものかを痛感しながら全力を挙げています。

流水

感謝をこめて「十年前の演説会であつた大門さんとの記念写真よ」。先日、函館でお会いした私と同年代の女性がそう言つて一枚の写真を見せてくれました。女性も私もやはり今より若い。北海道が私の活動地域になつてもう十一年と数カ月になります。中学、高校生のときから好きで何度も来ていた北海道。旅でふれた人情風情は今でも大切な思い出です。議員・候補者としてまわる北海道にはもっと深い人の温もりを感じました。同じ志をもつ仲間がきずな、それらが織りなす人間風景とでもいうのでしょうか。▼NTT北海道の雇い止めに対し最初たった一人で立ち上がった若い女性労働者。それを支えた通信労組の仲間や弁護士さんたち。意気に感じるたかいかいでした。NTTだけでなく業者運動や地域要求など弱い立場の人のために現場でたたかう方々の姿に何度も胸が熱くなりました。▼「家でテレビを見ているより大門さんの話を聞く方が面白い」と演説会に来てくれた旭川のおじいちゃん。演説であまり冗談を言わなかったら、「今日はどこか具合でもわるいの？」と心配してくれた札幌の女性。演説会でもいつも私の方が励まされました。▼私のこの十一年数カ月は、北海道に日本共産党の衆議院議員がない時期でもありました。やっと畠山和也衆議院議員が誕生。ちよつと肩の荷をおろしながらも、人とのきずなは引き続き大事にしたいと思つています。大好きな北海道にあらためて感謝をこめて。

日本共産党参議院議員
大門実紀史

